

科目名	情報処理						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	山本 昌枝		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	Word・Excel・PowerPointのアプリケーションソフトの基礎的な操作を学習し、レポート・発表会資料等の作成時に活用することができる。文章の入力に関して、5分間で200字以上(3級レベル)の文字入力ができる。						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○			キーボード入力が正確でスピーディに行えるようになる。(5分間で200字3級レベル程度以上)	
	○	○	○			Wordを使用してレポートや論文が作成できるようになる。	
	○	○	○			Excelを使用して表計算機能ができるようになる。	
	○	○	○			PowerPointを使用してスライド・資料作成ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:情報リテラシー アプリ編 Word2016・Excel2016・PowerPoint2016 (FOM出版) 参考文献:医療従事者のための情報リテラシー (日経BP社)情報リテラシーパーフェクトブック (ウイネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、Windowsの基礎、入力速度チェック				入力練習・復習	
	2	Wordの基礎、文字入力、編集、保存				入力練習・復習	
	3	書式設定、画像、SmartArtグラフィック				入力練習・復習	
	4	表、ページ罫線、タブ				入力練習・復習	
	5	ワードアート、段組				入力練習・復習	
	6	Word復習テスト・他				入力練習・復習	
	7	Excelの基礎、文字・数値の入力、表作成				入力練習・復習	
	8	表作成、四則演算、関数(SUM,AVERAGE,MAX,MIN)				入力練習・復習	
	9	絶対参照、関数(COUNT,COUNTA,IF)				入力練習・復習	
	10	データ分析(並べ替え、オートフィルタ)、グラフ作成				入力練習・復習	
	11	Excel復習テスト・他				入力練習・復習	
	12	キーボード入力の記録会、PowerPointの基礎				入力練習・復習	
	13	スライドの作成、スライドの書式設定				入力練習・復習	
	14	画像等の挿入、画面切替え、アニメーション、リハーサル、資料の作成				入力練習・復習	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記/実技)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記/実技)	○	○	◎	○		60%
	小テスト	○	○	◎	○		40%
履修上の注意							

科目名	生体力学						
科目名(英)	Biomechanics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	齊藤 貴文		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	1. 運動力学の基礎を理解し説明できる。2. 運動の法則、剛体に働く力を説明できる。3. 人の運動を力学的に捉え、生体への力の作用を分析できる視点を持つ。4. 動作や介助について必要な力学を体験し説明できる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動力学の基礎を理解し説明できる。	
	○	○				運動の法則、剛体に働く力を説明できる。	
	○	○				人の運動を力学的に捉え、生体への力の作用を分析できる視点を持つ。	
	○	○				動作や介助について必要な力学を体験し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:プリントを配布します。参考文献:1)中島雅美 中島喜代彦 :PT・OT基礎から学ぶ運動学ノート 医歯薬出版株式会社、2)物理のエッセンス 力学・波動 河合出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	運動力学の基礎① 生体力学とは… ・力学の単位			小テスト対策 授業ノート復習		
	2	運動力学の基礎② 力学の構成			小テスト対策 授業ノート復習		
	3	運動力学の基礎③ 力の合成と分解			小テスト対策 授業ノート復習		
	4	剛体に働く力① モーメント(トルク)			小テスト対策 授業ノート復習		
	5	剛体に働く力② てこの種類			小テスト対策 授業ノート復習		
	6	剛体に働く力③ 関節角度と力の関係			小テスト対策 授業ノート復習		
	7	運動の法則① 運動の3つの法則			小テスト対策 授業ノート復習		
	8	運動の法則② 重力加速度・落下運動			小テスト対策 授業ノート復習		
	9	運動の法則③ 質量・重量・力の単位			小テスト対策 授業ノート復習		
	10	仕事と力学的エネルギー			小テスト対策 授業ノート復習		
	11	床反力と関節モーメント①			小テスト対策 授業ノート復習		
	12	床反力と関節モーメント①			小テスト対策 授業ノート復習		
	13	演習問題①			小テスト対策 授業ノート復習		
	14	演習問題②			小テスト対策 授業ノート復習		
15	まとめ						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	医学英語						
科目名(英)	Medical English						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	和田 尚久		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	1. 英語の医学論文に慣れ、読解力を身につける。2. 生体各組織の機能や疾患について理解し、医学的な英単語を覚える。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				英文の構造を理解し、内容を理解することができる	
	○	○				医療関連の基本語彙を理解することができる	
	○	○				トピックスについて、自分の考えを述べる事ができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院「やさしい医学英語 Introduction to Medical English」編集 青野淳子 執筆 青野淳子 Daniel P Considine						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Introduction ; Chapter 1: Cell, Organ and System				分からない英単語を調べておくこと	
	2	Chapter 2-1: Circulatory System				分からない英単語を調べておくこと	
	3	Chapter 2-2: Disorder of the Circulatory System				分からない英単語を調べておくこと	
	4	Chapter 4-1: Respiratory System				分からない英単語を調べておくこと	
	5	Chapter 4-2: Disorder of the Respiratory System				分からない英単語を調べておくこと	
	6	Chapter 5-1: Digestive System				分からない英単語を調べておくこと	
	7	Chapter 5-2: Disorder of the Digestive System				分からない英単語を調べておくこと	
	8	Chapter 6-1: Urinary System				分からない英単語を調べておくこと	
	9	Chapter 6-2: Disorder of the Urinary System				分からない英単語を調べておくこと	
	10	Chapter 10-1: Reproductive System				分からない英単語を調べておくこと	
	11	Chapter 10-2: Disorder of Reproductive System				分からない英単語を調べておくこと	
	12	Chapter 12: Examinations 1-4				分からない英単語を調べておくこと	
	13	Chapter 12: Examinations 5-8				分からない英単語を調べておくこと	
	14	Chapter 13: Treatments 4,5; Review				分からない英単語を調べておくこと	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	毎回、必ず予習をしてきてください。						

科目名	接遇講座						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	寺坂 麻智子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	医療従事者としての接遇の心構えを学ぶ						
授業形式	講義: Δ	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:Δ		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		○			その場面にあった正しい言葉使いや立ち振る舞いが出来る	
	○	○				チームワークとコミュニケーションについて説明できる	
	○		○			一般常識的なマナーを実践できる	
				○		医療従事者としての接遇の心構えを持つことができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:実社会で求められるビジネスマナー(専門教育出版)/ケア・コミュニケーション(ウィネット)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	自己紹介 接遇の五原則				教科書の予習をしておく。	
	2	言葉遣い 正しい敬語				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	言葉遣い 敬語の分類				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	言葉遣い 好ましい話し方				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	言葉遣い 敬語の総練習				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	立ち居振る舞いの基本と応用				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	立ち居振る舞いの基本と応用				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	執務の基本				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	チームワークとコミュニケーション 電話応対				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	チームワークとコミュニケーション 電話応対				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	よりよいチームワークのためのマナーとコミュニケーション				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	よりよいチームワークのためのマナーとコミュニケーション				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	マナー一般 冠婚葬祭				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	ビジネス文書 手紙の書き方				授業資料のまとめを復習しておく。	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎		○	○		100%
履修上の注意							

科目名	解剖学							
科目名(英)	Anatomy							
単位数	4	時間数	60時間	担当者	小川 皓一			
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○			
対象学科・学年	理学療法学科 1年							
授業概要	解剖学の学習に必要な用語を学ぶ。人体を構成する細胞・組織の構造と機能を理解する。運動器系(骨格、関節・靭帯、筋)の構造を理解する。循環器系の構造を理解する。内臓(呼吸器系、消化器系)の構造・機能を学習する。							
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				骨・関節・靭帯に関する構造、部位の名称、特徴を理解できる。		
	○	○				骨格筋の構造、頭部・顔面・体幹・上肢・下肢の位置や名称を理解できる。		
	○	○				循環器系における必要知識を理解できる。		
	○	○				呼吸器・消化器系における必要知識を理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:1. PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁 監修 廣川書店 参考文献:1. ネット解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和 訳 南江堂 2. 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助 原著 南山堂							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	解剖学概論:人体の構成、解剖学用語 細胞学 組織学総論 ①:上皮組織、支持組織				課題プリントにて復習を行う。		
	2	組織学総論 ①:上皮組織、支持組織 組織学総論 ③:神経組織、人体の発生				課題プリントにて復習を行う。		
	3	骨格系 ①:総論、頭蓋骨 骨格系 ②:脊柱、胸郭				課題プリントにて復習を行う。		
	4	骨格系 ③:上肢帯・自由上肢の骨 骨格系 ④:下肢帯・自由下肢の骨				課題プリントにて復習を行う。		
	5	関節と靭帯 ①:総論、頭蓋骨の連結 関節と靭帯 ②:脊柱の連結、胸郭の連結				課題プリントにて復習を行う。		
	6	関節と靭帯 ③:上肢帯・自由上肢の連結 関節と靭帯 ④:下肢帯・自由下肢の連結				課題プリントにて復習を行う。		
	7	筋系 ①:総論、頭部・顔面の筋 筋系 ②:舌・口蓋・咽頭・喉頭の筋				課題プリントにて復習を行う。		
	8	筋系 ③:背部の筋 筋系 ④:体幹の筋				課題プリントにて復習を行う。		
	9	筋系 ⑤:上肢の筋 筋系 ⑥:下肢の筋				課題プリントにて復習を行う。		
	10	循環系 ①:血管の構造、心臓 循環系 ②:動脈系				課題プリントにて復習を行う。		
	11	循環系 ③:静脈系 循環系 ④:胎生期の循環、リンパ系				課題プリントにて復習を行う。		
	12	呼吸器系:鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、肺、胸膜 消化器系 ①:口腔、食道、胃、小腸				課題プリントにて復習を行う。		
	13	消化器系 ②:小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜 泌尿器系:腎臓、尿管、膀胱、尿道				課題プリントにて復習を行う。		
	14	生殖器系 ①:男性生殖器系 生殖器系 ②:女性生殖器系				課題プリントにて復習を行う。		
15	内分泌系:脳下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、睪丸				まとめのプリントにて期末テストへの理解を高める。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%	
履修上の注意	進行が早く進むので、教科書等にチェックを入れ自己学習に取り入れること。							

科目名	機能解剖学演習						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	山下 慶三		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	本科目は、理学療法士になるための解剖学の基礎となる科目である。骨の特徴的な構造を覚え、体表から触れることができる骨のランドマークを触知できる技術の習得を目指していく。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他: △	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		代表的な体表部位と運動方向についての解剖学用語で答えることができる。	
		○				体表から触診を通して、主要なランドマークが触れることができる。	
	○	○				骨をイメージでき、図示することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ul style="list-style-type: none"> 河合 良訓 監修: 骨単(ホネタン) ~語源から覚える解剖学英単語集~. 株式会社 NTS. 2010年 渡辺 正仁 監修: 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学 第4版. 廣川書店. 2009年 中村 隆一 他著: 基礎運動学 第6版. 医歯薬出版株式会社. 2007年 						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション「触れる」(触診)とは? 目的・利点・注意事項など				課題と小テストにて理解を進める。	
	2	機能解剖学概論 関節形態と動きの関係				課題と小テストにて理解を進める。	
	3	機能解剖学—上肢① 肩甲帯・肩関節				課題と小テストにて理解を進める。	
	4	機能解剖学—上肢② 肘関節・前腕				課題と小テストにて理解を進める。	
	5	機能解剖学—上肢③ 手関節・手指				課題と小テストにて理解を進める。	
	6	機能解剖学—上肢まとめ (小テスト)				課題と小テストにて理解を進める。	
	7	機能解剖学—体幹① 頸部・胸部				課題と小テストにて理解を進める。	
	8	機能解剖学—体幹② 腰部・骨盤帯				課題と小テストにて理解を進める。	
	9	機能解剖学—体幹③ 腰部・骨盤帯				課題と小テストにて理解を進める。	
	10	機能解剖学—体幹まとめ (小テスト)				課題と小テストにて理解を進める。	
	11	機能解剖学—下肢① 股関節				課題と小テストにて理解を進める。	
	12	機能解剖学—下肢② 膝関節				課題と小テストにて理解を進める。	
	13	機能解剖学—下肢③ 足関節・足部				課題と小テストにて理解を進める。	
	14	機能解剖学—下肢まとめ (小テスト)				課題と小テストにて理解を進める。	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト		○				20%
履修上の注意							

科目名	生理学						
科目名(英)	Physiology						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	大津 隆一		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる 人体の各器官の正常な機能が説明できる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				人体の各器官がどのように働き、生体内外の変化に対してどう反応して生体の恒常性を維持しているかを説明できる	
	○	○				人体の各器官の正常な機能が説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:PTOT 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版 執筆:岡田隆夫 長岡正範 参考図書:PT・OT基礎から学ぶ生理学ノート 第2版 参考資料:授業時に資料を配布する。						
授業計画	授業項目・内容			授業外学修指示			
	1	生体膜の機能と情報伝達 刺激による活動電位の発生			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	2	活動電位の伝導と伝達 神経細胞の機能			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	3	筋線維の機能① 筋線維の機能②			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	4	神経筋接合部と骨格筋の収縮 心筋・平滑筋の収縮			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	5	血液の機能 心臓の機能			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	6	循環系の調節① 循環系の調節②			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	7	肺と呼吸運動 呼吸系の調節			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	8	消化吸収と調節 腎臓の機能と排泄①			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	9	腎臓の機能と排泄② 酸一塩基平衡			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	10	内分泌系の機能 内分泌系の調節			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	11	エネルギー代謝と栄養素の代謝 体温調節			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	12	体性神経系の機能 自律神経系の機能			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	13	脊髄の機能 脳幹の機能			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	14	小脳と大脳の機能① 小脳と大脳の機能②			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
	15	運動と生体機能 まとめ			生理学ノートにて予習・復習する。 授業ノートを作成する。		
評価方法	(1)授業の中で中間テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	中間テスト	◎	◎				30%
履修上の注意							

科目名	運動学						
科目名(英)	kinesiology						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	峰岡 哲哉		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	1.身体運動の基礎を講義形式学び、学生相互の確認にて小テストで理解度を図る。 2.上肢を中心に各関節の構造と関節の運動を導く筋の走行を講義と演習にて理解を図る。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人体の構造を理解し主要な組織を説明できる。	
	○	○				各関節の構造を説明できる。	
	○	○				各関節の正常な動き説明できる。	
	○	○				各関節の運動を導く筋の走行を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:「基礎運動学6版改定」中村隆一、齋藤宏、長崎浩著、医歯薬出版「筋骨格系のキネシオロジー」島田智明、平田総一郎著、医歯薬出版「肉単骨単」河合良訓、原島広至、NTS 参考文献:「カバンジー機能解剖学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」塩田悦仁著、医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション、総論(運動学の定義、運動における基礎用語)、総論(運動器の構造と機能、関節運動、対する基礎理解)			課題と小テストにて理解を進める。		
	2	総論(関節運動、筋の作用に対する基礎理解)			課題と小テストにて理解を進める。		
	3	総論(神経と筋との関係、筋の収縮形態)			課題と小テストにて理解を進める。		
	4	肩関節 人体における肩、の役割 上肢の神経と血管、肩関節 肩を構成する肩複合体			課題と小テストにて理解を進める。		
	5	肩関節 肩複合体の関節構造と関節の運動、肩関節 神経支配と筋の作用			課題と小テストにて理解を進める。		
	6	肩関節 運動と筋			課題と小テストにて理解を進める。		
	7	肘関節 関節構造と関節の運動、神経支配と筋の作用			課題と小テストにて理解を進める。		
	8	肘関節 運動と筋の走行			課題と小テストにて理解を進める。		
	9	前腕 関節構造と関節の運動、神経支配と筋の作用			課題と小テストにて理解を進める。		
	10	前腕 運動と筋の走行			課題と小テストにて理解を進める。		
	11	手関節 関節構造と関節の運動			課題と小テストにて理解を進める。		
	12	手関節 運動と筋の走行			課題と小テストにて理解を進める。		
	13	手指 関節構造と関節の運動			課題と小テストにて理解を進める。		
	14	手指 運動と筋の走行			課題と小テストにて理解を進める。		
	15	全体のまとめ			前期講義内容をまとめのプリントにて理解を図る。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	小テスト	◎	○				30%
履修上の注意							

科目名	人間発達学						
科目名(英)	Human Developmental						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松岡 美紀		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	重症心身障害児施設において 理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	新生児～12か月の人間の認知や運動発達を通して、発達の不思議や人間の行動の成り立ちについて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達とは何か。人と動物の違いについて説明できる。	
	○	○				感覚・知覚・認知の違いについて説明できる。	
	○	○				言葉の発達、心の理論について説明できる。	
	○	○				原始反射、姿勢反射とは何か、説明できる。	
○	○				0か月～12か月の粗大運動の発達について大まかに説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:「イラストでわかる人間発達学」上杉雅之監修、医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション・発達の概念 人と動物の違い			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	2	発達概念 発達とは？発達理論について			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	3	感覚・知覚・認知の発達	感覚って何だろう？その始まり		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	4	言語の発達	言語始まり 共同注視とは		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	5	心の発達	心の理論とは何か		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	6	原始反射と姿勢反射①	原始反射とは何か		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	7	原始反射と姿勢反射②	原始反射の種類		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	8	原始反射と姿勢反射③	姿勢反射とは		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	9	粗大運動の発達①	胎児期・新生児期の発達		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	10	粗大運動の発達②	3か月までの発達		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	11	粗大運動の発達③	6か月までの発達		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	12	粗大運動の発達④	9か月までの発達		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	13	粗大運動の発達⑤	12か月までの発達		担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
	14	発達理論(エリクソン・ピアジェ・フロイト)			担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	宿題・レポート	○	○				20%
	小テスト	◎	○		◎		20%
履修上の注意	予習型の授業で楽しく学びたいと思います。						

科目名	一般臨床医学						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安藤 廣美		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	医学の成り立ちや基本姿勢、医学対象となる健康・病気の概念や基本的な診断・治療 について学ぶ。また代表的な疾患についての理解を深める						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことができる。	
	○	○		○		医学の歴史と体系を説明できる。	
	○	○		○		医療人として倫理観を持つことができる。	
	○	○		○		疾病の構造を説明できる。	
	○	○		○		診断の意義を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学概論/日野原重明/医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	医学の歴史と体系1: 医学の起源、古代の医学				教科書の予習しておく。	
	2	医学の歴史と体系2: 中世の医学、近世の医学				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	医学の歴史と体系3: 20世紀以降の医学				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	医学の歴史と体系4: 我が国における医学の発達のすがた				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	医学の倫理1: 医学概論で何を学ぶか、医学とは何か				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	医学の倫理2: 人間の生命を考える、病気と医学				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	医学の倫理3: 医学とリハビリの実践のために、死への対応				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	生体の恒常性と健康: 健康・病気・医学の体系				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	疾病構造の変化と医学の変貌: 新しい医療システム				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	病気と診断学1: 病気の原因				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	病気と診断学2: 病気による身体の変化				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	病気と診断学3: 病気の診断				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	病気と治療学: 病気の治療とリハビリテーション				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	救急医療・疾病予防: 病気の予防				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意							

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical psychology						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	富永 明子		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	この方向題を抱えた人やその家族についての理解と援助の方法を研究・実践する臨床心理学について、基礎的な知識・技法を学習し理解する。また、卒業後の現場において臨床心理学の知識を活かしていただけるために、他者とのかかわりや自分自身についての思考・感情・言動をふり返り、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○		○	対象者への援助の方法やその実践について基礎的な知識・技法を説明できる。		
	○	○		○	臨床心理学の知識を臨床抱擁する為の方法を説明できる。		
	○	○		○	他者や自分自身の振り返る機械とし、自己認識した内容を説明できる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書:「心とかがわる臨床心理 基礎・実際・方法」川瀬正裕・松本真理子・松本英夫(著) ナカニシヤ出版 参考文献:「はじめて学ぶ人の臨床心理学」杉原一昭監修 渡邊映子・勝倉孝治編集 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	臨床心理学とは				教科書の予習をしておく。	
	2	人格理論①:精神分析理論、分析的心理学				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	人格理論②:自己理論、自己愛理論				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	発達理論①:分離-個体化理論、対象関係論				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	発達理論②:漸成発達理論				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	心理アセスメント①:アセスメントとは、発達検査、知能検査				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	心理アセスメント②:人格検査(質問紙法)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	心理アセスメント③:人格検査(投影法)、その他の検査				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	心理療法①:基本的態度、クライエント中心療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	心理療法②:精神分析療法、分析的心理療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	心理療法③:遊戯療法、芸術療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	心理療法④:森田療法、家族療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	心理療法⑤:行動療法、認知行動療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	心理療法⑥:自律訓練法、集団精神療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	リハビリテーション概論						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	木村 孝		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	病院において 理学療法士として勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	リハビリテーションという言葉は、一般社会でもよく使われるようになってきている。通常、障害に対する機能回復のための治療・訓練として用いられてきている。しかし、この解釈は、リハビリテーションの中の極めて狭い領域となっている。リハビリテーションにおける理念・背景をリハビリテーションの特徴を含め紹介する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○	○			医療人としての倫理を歴史的背景に基づいて説明できる		
	○	○			リハビリテーションの定義と歴史を含んだ語源を説明できる		
	○	○			リハビリテーションの5分野と4つの期をそれぞれの特徴と関連性を説明できる		
	○	○			ICFについてICIDHと比較して特徴と相違について説明できる		
	○	○			他職種連携の意味と重要性をそれぞれの職種の役割を踏まえて説明できる		
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1)PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション概論 椿原彰夫編 診断と治療社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション					
	2	医療倫理			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	3	リハビリテーションの歴史			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	4	リハビリテーションの5分野と4つの期			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	5	ICIDHとICF			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	6	ADLとIADL			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	7	地域包括ケアシステム・他職種連携			資料内容について、読み返し用語については調べてください。また事前学習にも取り組んでください。		
	8	作業療法士とリハビリテーション			職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。		
	9	言語聴覚士とリハビリテーション			職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。		
	10	看護師とリハビリテーション			職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。		
	11	医師とリハビリテーション			職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。		
	12	社会福祉士とリハビリテーション			職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。		
	13	世界のリハビリテーション			職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。		
	14	最先端のリハビリテーション			職種と理学療法士の関係について、再度復習・予習に取り組んでください。		
	15	試験対策					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				70%
	レポート	○	◎		◎		15%
	小テスト	○	◎		◎		15%
履修上の注意	1)グループワークで理解を深めます。2)各職種の講義については時間・日程変更または内容変更があります。						

科目名	理学療法学概論						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	30時間	担当者	峰岡 哲哉・松木 直人		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	①理学療法士についてその歴史や関係法規・諸制度を知り、自分の言葉で説明できる。 ②理学療法士の位置づけ、役割、対象疾患、関連職種などを理解し、リハビリテーション活動に参画する一 専門職としての役割を説明できる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことが出来る。	
	○	○		○		医療の中の理学療法の位置づけを説明できる。	
	○	○	○	○		理学療法の視点から、障がい者の日常生活上のデメリットを説明できる。	
	○	○	○			理学療法の評価・治療の流れを説明できる。	
	○	○		○		今後の理学療法に必要なことをディスカッションできる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:高橋精一郎・千住秀明:理学療法学概論 第4版. 神陵文庫, 2013						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション			教科書の予習しておく。		
	2	対人援助の仕事とは —コミュニケーションの重要性—			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	理学療法総論 概念と歴史			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	理学療法士の法律・関連法規①			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	理学療法の意義と役割・対象			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	理学療法の方法			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	医療・保健分野の理学療法			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	リスクマネジメント			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	グループ演習①(運動療法)			授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	グループ演習②(物理療法)			授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	分野別の理学療法士の役割(整形外科分野)			授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	分野別の理学療法士の役割(中枢神経分野)			授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	分野別の理学療法士の役割(内部障害分野)			授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	分野別の理学療法士の役割(小児分野)			授業資料のまとめを復習しておく。		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意							

科目名	評価学 I						
科目名(英)	Evaluation of Physical Therapy I						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	熊丸 真理		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	①理学療法評価の項目と内容(意味)と必要性について述べ、各検査・測定項目について正確に実施することができるようになる。②測定結果よりその障害像について考察することができるようになる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				対象者の何を評価するのかを知り、理学療法評価の意味、理学療法プロセスの流れを理解する。	
	○	○	○	○		情報収集の目的と内容を知り医療面接ができるようになる。	
	○	○	○			バイタルサインの目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。	
	○	○	○			形態測定の目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。	
	○	○	○			関節可動域測定の目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)潮見泰臈, 下田信明:リハビリテーション基礎評価学第1版. 羊土社, 2014. 参考文献:1)金子丑之助 他:日本人体解剖学(上巻)南山堂, 2003. 2)基礎運動学 第6版 齋藤 宏・中村隆一著 医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	評価総論① オリエンテーション 評価とは・・・検査・測定について考える				教科書の予習をしておく。	
	2	評価総論② 検査・測定の意義・目的と評価の構成要素				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	生理機能評価(バイタルサイン)① 基本的知識と測定する意味を考える				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。	
	4	生理機能評価(バイタルサイン)② バイタルサインの測定方法と記録				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。	
	5	形態測定① 人を触るといこと・骨の触察(ラウンドマークの確認)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。	
	6	形態測定② 形態測定とは(形態測定の意義・目的・体格指数)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。	
	7	形態測定③ 形態測定(四肢長)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。	
	8	形態測定④ 形態測定(胸囲・腹囲・四肢周径)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。	
	9	関節可動域測定 総論(解剖学的知識、関節構造、運動学の知識の統合)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。	
	10	関節可動域測定 ①				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。	
	11	関節可動域測定 ②				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。	
	12	関節可動域測定 ③				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。	
	13	関節可動域測定 ④				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。	
	14	関節可動域測定 ⑤				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめと実技練習をしておく。	
	15	まとめ				今までの総復習をしておく。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記・実技)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記・実技)	◎	◎	◎			80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意	実技試験も定期試験に含む。						

科目名	評価学演習						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	牧井 昭憲 ・ 園田 剛之		
実施年度	2019年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	理学療法学科 1年						
授業概要	1. 運動機能検査の神経学的な理論を説明できる。2. 運動機能検査の臨床的意義を知り、実際に施行できる。3. 疾患別の評価の特徴を理解し、まとめることができる。4. 理学療法評価の統合と解釈をとらえることができる						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					運動機能検査の神経学的な理論を説明できる	
	○		○			運動機能検査の臨床的意義を知り、実際に施行できる。	
	○	○				疾患別の評価の特徴を理解し、まとめることができる	
		○	○			理学療法評価の統合と解釈をとらえることができる	
			○			安全に配慮して実習を行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)潮見泰三、下田信明:リハビリテーション基礎評価学、羊土社、2)田崎義明、斉藤佳雄:ベッドサイドの神経の診かた。南山堂、参考文献:1)岩倉博光、松沢正:理学療法評価法、金原出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業オリエンテーション、評価学演習総論			教科書の予習しておく。		
	2	脳血管障害総論①、脳血管障害総論②			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	運動機能検査 片麻痺運動機能検査①、運動機能検査 片麻痺運動機能検査②			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	運動機能検査 筋緊張検査①、運動機能検査 筋緊張検査②			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	運動機能検査 反射検査①、運動機能検査 反射検査②			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	運動機能検査 感覚、疼痛検査①、運動機能検査 感覚、疼痛検査②			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	運動機能検査 バランス機能、姿勢反射①、運動機能検査 バランス機能、姿勢反射②			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	運動機能検査 脳神経検査①、運動機能検査 脳神経検査②			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	運動機能検査 高次脳機能検査①、運動機能検査 高次脳機能検査②			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	理学療法検査、測定結果の統合と解釈 症例1 初期情報、理学療法検査、測定結果の統合と解釈 症例1 仮説			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	理学療法検査、測定結果の統合と解釈 症例1 問題点、プラン、理学療法検査、測定結果の統合と解釈 症例1 まとめ			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	理学療法検査、測定結果の統合と解釈 症例2 初期情報、理学療法検査、測定結果の統合と解釈 症例2 仮説			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	理学療法検査、測定結果の統合と解釈 症例2 問題点、プラン、理学療法検査、測定結果の統合と解釈 症例2 まとめ			教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	実技総復習			授業資料のまとめを復習しておく。		
15	総まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記・実技)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記・実技)	◎	○	◎			80%
	小テスト			○	○		20%
履修上の注意	定期試験には、実技試験を含みます。実習着を忘れないこと。						